

# 牛久：学校周辺に見る自然

第27号 牛久二小

2013年12月5日発行

## ＜ 秋の生きもの観察 ⑤その他の昆虫、クモ ＞

11/6、牛久二小4年生と秋の校庭観察。今回はカメムシやクモなどの紹介です。



幼虫が集団で越冬する、ヨコヅナサシガメ。  
アオマツムシを捕え、体液を吸う(上)。  
幹の割れ目に集まり始める(左)。

まずは、何度か登場しているヨコヅナサシガメ。  
幹に張りついたコケの上を歩きまわっているのを写真に撮っていましたが、よく見るとコケと同じ色をしたアオマツムシ(オス)を捕まえ、長い口をさして体液を吸っていました。そのグロテスクな姿から、よく木をいためる害虫と間違われますが、実際はイラガの幼虫など木の葉を食べあらず害虫などをたいじしてくれる益虫なのです。ただし、手でつかんだりすると刺され、刺された人の話によるとその痛みはムカデにかまれた時よりもずっと痛かったそうですから、くれぐれも気をつけて下さい。別の木では、幹の割れ目に何頭かの幼虫が集まっていました。冬が近づくにつれ、この集団はもっともっと大きくなり、かたまって寒さをしのぎます。





成虫が集団でかたまって越冬する、マルカメムシ(左)。クズなどマメ科植物の汁を吸う。  
赤と黒のもようで天敵をさけるヒメジュウジナガカメムシ(右上)。セイタカアワダチソウの花の汁を吸っていた。  
ミスジバエとともに、柿の汁を吸うチャバネアオカメムシ(右下)。

他にもカメムシの仲間が何種類か見られました。ビオトープ近くの枯れ草には、**マルカメムシ**が集まっていました。石や樹皮の下などで、集団で越冬します。セイタカアワダチソウの花には、**ヒメジュウジナガカメムシ**が来ていました。花や実の汁を吸うカメムシです。タテハチョウやミスジバエなどと一緒に柿の汁を吸っていたのは、**チャバネアオカメムシ**。これも果実の汁や、花のみつを吸うカメムシです。カメムシの仲間は、中には幼虫や卵で越冬するものもありますが、多くは成虫で冬を越すようです。



その他、ヨモギでは**ヨモギハムシ**の交尾が多数見られました。その名の通りヨモギの葉を食べる昆虫で、成虫と卵で越冬するそうです。

また、低い草の中に**ナナホシテントウ**の幼虫が、ビオトープの木の枝の間には**ジョロウグモ**がいました。【理科支援員：宮内】  
えさでもあるヨモギの上で交尾する、ヨモギハムシ(左上)。  
草の中にいたナナホシテントウの幼虫(左下)。  
えものを待ちぶせするジョロウグモのメス(右)。

